

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホームひじり	ユニット名	青葉通
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8番26号		
自己評価作成日	令和 4年 1月 22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、一年を通し季節を感じていただけるよう、季節ごとの行事に力を入れています。今年から新たに建物前に菜園・花壇を新設しました。「地域密着」を意識し、近隣住民の方との交流を行い、地域社会とのつながりを大切にしています。自立と尊厳を尊重し、安心できる暮らしの提供を理念に掲げ、常に入居者様を主としたケアを意識し取り組んでいます。時間に追われることなく落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、安心・安全な生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川の河岸段丘に広がる閑静な住宅地にあり開設4年を迎えるホームである。毎年、職員で話し合い目標を立てて取り組んでいる。「個人支援の充実」や「職員同士の意見交換」等のユニット目標を掲げ、習字や洗濯物たたみ等の得意分野の継続支援で入居者の自信に繋がっている。コミュニケーションを大切に、情報収集やプラン作成、実施、振り返りを繰り返し、一人ひとりに合ったケアを実現している。家族への情報提供や要望の聞き取りを細やかにし、信頼関係を築いている。同医療法人の「杜のホスピタル・あおば」との協力体制は、医療面の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり)「ユニット名 青葉通 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の実現と、グループホームひじり理念「自立と尊厳を尊重し安心できる暮らしを提供する」を職員間で共有しチーム一丸で入居者様に寄り添うケアを心掛けています。	理念やホームとユニット毎の目標を事務所に掲示している。年度末に職員ミーティングで振り返りを行い、次年度の目標を決めている。入居者の発言を職員間で共有し、個々に合ったケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動の清掃活動や周辺道路雪かき、廃品回収等に積極的に参加しています。また、グループホームで企画したイベントの案内をさせて頂いております。	町内会に加入し、区長、民生委員から地域の情報を貰っている。ホームの花火大会や芋煮会の開催チラシを回覧板で知らせている。庭で育てた花を届けてくれる方がいる。入居希望する方に見学・説明を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、地域の方との交流、触れ合いの機会を設けている。認知症に対する理解を深め、適時必要な情報提供を心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での助言を参考にサービス向上に努めています。また、ご家族様とのコミュニケーションから得たご意見も反映しサービス向上に生かしています。	会議は2ヵ月毎に行い、包括職員等メンバーに議事録を郵送し、意見を返信して貰う。出された意見にホームの対応を記載し、次の議事録で報告している。ヒヤリハット等の公表が安心に繋がるとの意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて地域包括支援センターへの実情、活動報告しています。また、市町村担当者とも、密に情報交換を行い良好な協力関係を築けるよう取り組んでいます。	介護保険の更新手続きや自立支援の相談をしている。コロナ抗原検査キットの配布があり、ワクチン接種の情報や研修案内がメールで届く。3月に予定している土砂災害の避難訓練について、やり取りしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい知識の習得を目標に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。職員とは常に相談できる体制作りに取り組んでいます。	毎月の職員ミーティングで、ホームでのケアの検証を行う。スピーチロック等グレーゾーン対策を話し合い、議事録回覧で情報の共有を図っている。「～してみませんか」等提案型の声掛けを心掛けている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修(オンライン)は職員全員参加し不適切なケアが行われないよう理解を深めています。職員とは常に相談できる体制作りに取り組んでいます。	3ヵ月毎の委員会で研修内容等を話し合う。入浴時に身体状況を観察している。介助拒否の方には、時間や職員を替えて声掛けを行う。職員が悩みを抱え込まないように、日常的なコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会への参加し、全職員への伝達研修を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を心掛け、入居後も積極的にお声掛けさせて頂き入居者様、ご家族様の不安や疑問解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様が要望等をグループホームや第三者委員に報告出来ることを明記した文書を掲示しています。日頃から良好な関係を築けるよう配慮しています。	電話連絡時は、不安な点の聞き取りを行っている。面会制限があるので、月1回の「お便り」で写真を活用し、日常の様子を報告している。料金は法人病院の窓口支払いだが、希望があり口座振替にも対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し職員と話し合う場を設けています。改善すべきことは迅速に対応するよう心掛けています。	年1回の面談を行っている。月3日の希望休の他に希望に沿ったシフトになるよう調整している。資格取得は勤務扱いで助成がある。入居者が、室内でも楽しめる機会を多くしたいとの意見で、ケーキ作りをした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から職員とのコミュニケーションを通して職員個々の能力を認め、必要性を伝えます。ホームでの役割を明確に伝えることで向上心や、やりがいに繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務調整をして研修会参加を支援し、職員が講師となり伝達講習を行う場を設け、お互いのスキル向上に繋げている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加することで他事業所の職員との交流を深め情報交換し自施設のサービス向上に努めています。	仙台市主催の研修に参加し、情報交換を行った。「八幡連携の会」に参加し、高齢者の独居について話し合い、地域の関わり方の大切さを再認識した。コロナ予防や施設内での注意点の医師の講話が参考になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションの中から、不安や困っている事、要望等があるか耳を傾け可能な限り受け入れ、本人の安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けて担当ケアマネージャーと共に、本人、ご家族の不安、要望を聞き取り可能な限り受け入れるよう努めています。入居後も細目にお声がけすることで良好な関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集、本人とご家族の要望等を考慮し、職員間で情報共有することで「その時」必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを一緒に行うなかで、入居者様には自分で出来る事はしていただきながら日々の生活を過ごしてもらう。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは細目に情報交換を行い、本人とご家族様の絆を大切に見守りながら、ご家族様と共に入居者様を支えています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の方とも面会できる配慮をしています。本人様宛の電話やお手紙もしっかりお繋げし、時にはお手紙のお返事を職員と一緒に書いてお出しする事もあります。	状況に合わせた面会やリモート面会で、家族との関係継続を支援している。訪問マッサージや訪問理美容の利用で、新しい馴染みの関係が出来た。法人音楽療法士の月1回の来訪が楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮した座席配置をしています。アクティビティ時などでは入居者様が孤立することのないように職員から積極的に声掛けするように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が『その時』に合った生活が出来るように、ご家族様には相談・支援を行うことをお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや要望を汲み取り支援に繋がっています。必要に応じて職員ミーティングの場で話し合い検討しています。	会話の中で行きたい所ややりたい事を聞き、思いの把握に努めている。朝食前の飲み物は、好きな物を選んで貰っている。習字が得意な方に、筆ペン等を準備して毛筆で手紙の返事を書いて貰った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で、本人様、ご家族様から生活歴等の情報収集をおこなっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の様子を観察し、気づきがあれば介護日誌や申し送りノートに記録し職員間で共有しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者からの必要な情報を提供していただき、本人様・ご家族様の希望を取り入れた介護計画を作成している。課題や目標を明確に設定するように心掛けている。	2ヵ月毎にモニタリングを行い、情報を基に家族と相談し変更している。夜間帯は、皮膚トラブルに繋がらない様おむつ交換を優先することや薬に頼らない排便対策で、夕食後のヨーグルト摂取を取入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌や申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行い介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対応するために、現状をしっかりと把握し『今必要な事は何か?』柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自地域にある地域資源を把握し積極的な交流をおこない、入居者様にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時、主治医に本人様の様子やご家族様の希望を細かく報告・相談しています。また、週1回の訪問歯科を受診し、口腔ケアのアドバイスを頂いています。本人、ご家族様が安心頂ける医療連携を支援しています。	全員が、協力医の訪問診療を利用している。歯の治療は訪問歯科を利用している。整形外科や皮膚科等は家族付添いで受診し、家族との情報提供は口頭で行っている。緊急時は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職員、関係機関の看護職員とは、入居者様の状態について情報交換を行い適切な受診・看護が受けられる体制を整えています。また、緊急時も連携を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換の連携を取り合っている。入居者様とご家族様が安心して治療できる環境を整えるよう心掛けている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針、グループホームで出来る事、出来ない事を説明しご理解を得ています。本人様が望むケアは何か？ご家族様と十分な話し合いを行いチームで支援に取り組んでいます。	終末期は、医師や家族、職員で再度話し合い方針を決める。好きな物を食べて貰ったり、家族で過ごす時間が取れるようプランの見直しを行い支援している。職員には、看護師による看取り学習会や振り返り研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の知識 緊急時対応の内部研修を全職員受講しています。今後は実践訓練も企画し、職員全員が的確な初期対応出来るよう取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練を定期的実施、昼夜を想定した避難訓練を実施しています。参加者には反省・感想・改善点等を出してもらい、次回の訓練に役立っています。	夜間想定を含む年2回の災害訓練を行った。職員の多い日勤帯は、役割が曖昧になっているとの感想があり、役割分担を決めた。近くの同法人病院のサポート体制があり、水害時は2次避難所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して、人格の尊重・プライバシー確保に対する知識習得を行っています。排泄時の見守りや声掛けにもプライドを損ねないよう配慮しています。	入居者を呼ぶ時は、さん付けである。居室へはノックをしてから入室している。入浴の際はタオルで覆ったり、安全が確保されていれば、脱衣所で見守りを行う。排泄の失敗時は、小声でトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いを尊重しています。食事の希望や季節感を味わう外出企画も、入居者様の思いが反映されるように個別でお話しを聞き自己決定していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでのタイムスケジュールは設定していますが、職員側の都合を優先するのではなく、その日の体調・気分等、本人が希望する生活のリズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を尊重しています。女性入居者様のお化粧品などは必要な物品があればご家族様に相談し準備をお願いしています。清潔感のある身だしなみを意識し支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べ物の好みや、その方に合った食事形態に対応したメニューで提供しています。また、食事の準備や後片付けも入居者様と共に行っています。	職員が献立を作り調理している。法人栄養士に栄養アドバイスを貰う。季節の食材を利用し、目で楽しめる盛り付けの工夫もしている。肉や魚等好き嫌いにも可能な限り対応している。寿司やピザが喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、毎日食事量や水分摂取量を記録に残し職員間で情報を共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者様には職員が仕上げを行います。訪問歯科診療を取り入れ専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの自立排泄を目指しています。	日中は全員トイレを利用している。失敗があった時は、声掛けの間隔を短くして誘導している。夜間は人感センサーや誘導灯で安全に配慮している。手摺りの利用方法を説明し簡単に立てるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防を目的に水分を多めに摂取頂いたり、食物繊維を献立に取り入れる工夫をしています。便秘解消運動も取り入れてます。ご家族様からも便秘予防につながる情報をお聞きして個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気をつけ入浴剤を入れリラックス出来るように対応しています。入浴の時間帯は入居者様の意に沿えるようにしています。	週2回実施している。入浴剤は2種類から選んで貰い、低めの温度で長湯を楽しんで貰っている。転倒防止対策で、手摺りや滑り止めマット設置、2人介助で行う事もある。脱衣所の温度にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際には、居室の環境(温度、明るさ等)に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬に関する詳細は薬情ファイル(お薬の説明書)を確認し支援しています。職員が何時でも閲覧出来るように設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様から個々の生活歴や得意な事などをお聞きし、グループホームでの役割(食器洗い、裁縫等)楽しみごと(イベント、季節ごとの外出等)を共に行うことで生活に張り合いを持っていただけるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただける外出や、本人が希望する場所への外出企画を積極的に提案しています。	紫山の花見やイルミネーション見学のドライブで気分転換を図っている。法人病院に慰問に来るプロレス観戦が喜ばれている。天気の良い日は近くの河原まで散歩をしたり、畑作業等で外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族様の了承を得て、所持できるよう配慮しています。外出先で個人のお小遣いから支払うこともあります。支払い証明書を発行し金額・購入品をご家族様に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族様から要望がある時には、電話やお手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室の温度・湿度管理を行い快適に生活出来るようにしている。居室内は、ご家族様から頂いた写真やメッセージ等を見える場所に掲示し入居者様が居心地良く生活出来るよう工夫している。	フロアは、音や色の刺激が強くないように、カーテン等で調節している。サーキュレーターを使用し対流を図り、1日2回換気を行っている。フロアの掃除は入居者も一緒にしている。雛人形を飾り季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣などその方の人間関係の傾向を考慮し、思い思いに過ごせる座席配置やスペース確保の工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで、本人様が落ち着いてくつろげる空間になるように、家族様の協力を頂き、入居者様と共に環境整備をしています。	ベッドやクローゼット、カーテン等が備え付けられ、テレビや机、ソファ等使い慣れた物を持ち込んでいる。家族の写真や届いた葉書が飾られている。読書やボタン付け、昼寝等をして思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の表示がその方に理解しやすい言葉やマークで表示するように配慮しています。浴室＝風呂場。トイレ＝お手洗い、便所。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホームひじり	ユニット名	定禅寺通
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8番26号		
自己評価作成日	令和 4年 1月 22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの生活の中で、季節を感じられる行事・活動に力を入れ、入居者様と一緒に企画しています。医療法人社のホスピタルあおばで開催されるイベントにも積極的に参加し、患者様や病院職員との交流も大切にしています。入居者様においては出来る事を率先して行うことで、生きがいをもって自分らしい生活を送っていただいています。明るい雰囲気作りを心掛け、人が集まる施設づくりを目指していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川の河岸段丘に広がる閑静な住宅地にあり開設4年を迎えるホームである。毎年、職員で話し合い目標を立てて取り組んでいる。「個人支援の充実」や「職員同士の意見交換」等のユニット目標を掲げ、習字や洗濯物たたみ等の得意分野の継続支援で入居者の自信に繋がっている。コミュニケーションを大切に、情報収集やプラン作成、実施、振り返りを繰り返し、一人ひとりに合ったケアを実現している。家族への情報提供や要望の聞き取りを細やかに行い、信頼関係を築いている。同医療法人の「杜のホスピタル・あおば」との協力体制は、医療面の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひじり)「ユニット名 定禅寺通」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の実現と、グループホームひじり理念「自立と尊厳を尊重し安心できる暮らしを提供する」を職員間で共有しチーム一丸で入居者様に寄り添うケアを心掛けています。	理念やホームとユニット毎の目標を事務所に掲示している。年度末に職員ミーティングで振り返りを行い、次年度の目標を決めている。入居者の発言を職員間で共有し、個々に合ったケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームで企画したイベントには近隣の方を招待したり、町内会活動には積極的に入居者も参加することで日常的に交流を深めていきたいです。	町内会に加入し、区長、民生委員から地域の情報を貰っている。ホームの花火大会や芋煮会の開催チラシを回覧板で知らせている。庭で育てた花を届けてくれる方がいる。入居希望する方に見学・説明を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、地域の方との交流、触れ合いの機会を設けている。認知症に対する理解を深め、適時必要な情報提供を心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の活動の様子やアクシデントやインシデント事例の報告等、参加者との意見交換や助言いただきサービス向上に活かしています。	会議は2カ月毎に行い、包括職員等メンバーに議事録を郵送し、意見を返信して貰う。出された意見にホームの対応を記載し、次回の議事録で報告している。ヒヤリハット等の公表が安心に繋がるとの意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の日常生活上の安全・安心・健康を確保するために必要な情報交換や助言をいただき、ケア向上に取り組んでいます。	介護保険の更新手続きや自立支援の相談をしている。コロナ抗原検査キットの配布があり、ワクチン接種の情報や研修案内がメールで届く。3月に予定している土砂災害の避難訓練について、やり取りしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修通して職員が正しい知識を習得・共有しケアを遂行しています。また、身体拘束廃止委員会の活動の中で外部(法人職員)を招いてケアの質を点検する機会を設けている。	毎月の職員ミーティングで、ホームでのケアの検証を行う。スピーチロック等グレーゾーン対策を話し合い、議事録回覧で情報の共有を図っている。「～してみませんか」等提案型の声掛けを心掛けている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の目的、対象等を研修を通して学んでいます。不適切なケアが放置されることなく相談できる体制作りに努めています。	3カ月毎の委員会で研修内容等を話し合う。入浴時に身体状況を観察している。介助拒否の方には、時間や職員を替えて声掛けを行う。職員が悩みを抱え込まないように、日常的なコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、職員全員への伝達研修を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、ご家族様に対し十分な説明を行い入居後も積極的にお声掛けし不安や疑問の解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をグループホーム内に設置し、入居者様、ご家族様の声をお聞きし、職場内ミーティング時、運営推進会議の場で報告し事業所の運営に反映させています。	電話連絡時は、不安な点の聞き取りを行っている。面会制限があるので、月1回の「お便り」で写真を活用し、日常の様子を報告している。料金は法人病院の窓口支払いだが、希望があり口座振替にも対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、職員ミーティングの場で職員からの意見、提案する場を設け事業所の運営に反映させています。	年1回の面談を行っている。月3日の希望休の他に希望に沿ったシフトになるよう調整している。資格取得は勤務扱いで助成がある。入居者が、室内でも楽しめる機会を多くしたいとの意見で、ケーキ作りをした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シート、年2回の自己評価を用いて個人目標達成に向けたフォローアップを行い、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加出来るよう業務調整を行っている。研修に参加した職員には、伝達講習を実施してもらい職員同士のスキル向上に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加することで、他事業所職員との交流を深め情報交換することで自施設のサービス向上に努めています。	仙台市主催の研修に参加し、情報交換を行った。「八幡連携の会」に参加し、高齢者の独居について話し合い、地域の関わりの方の大切さを再認識した。コロナ予防や施設内での注意点の医師の講話が参考になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言語、非言語コミュニケーションを通して信頼関係の構築に努めています。入居者様の生活上の課題や不安を解消し良好な関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱えている不安・要望に耳を傾け、ひとつひとつ解消に向け取り組むことで良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様の要望を加味し、生活上の安全・安心・健康を確保するための多様なサービス利用も含めたケアに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティの中で、職員は入居者様と一緒に楽しむように心掛けています。活動制限や参加制約をせず『出来る事』『している事』を見守るよう心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様の絆を見守り、些細な事でも報告しご家族様と共に入居者様を支えていく関係づくりに努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様へのお電話は、お繋ぎしています。お手紙も本人様へお渡しし、お返事を出す際、はがき、切手を準備し支援しています。	状況に合わせた面会やリモート面会で、家族との関係継続を支援している。訪問マッサージや訪問理美容の利用で、新しい馴染みの関係が出来た。法人音楽療法士の月1回の来訪が楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し、座席配置をしています。アクティビティの時には入居者様が孤立することなく楽しく参加出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の『その時』にあった生活をサポート出来るように必要に応じた相談・支援を行う事をお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、入居者様が発した言葉や表情から思いを汲み取っています。時にはご家族様からお話しをお聞きし、その方にとって最良な生活になるよう努めています。	会話の中で行きたい所ややりたい事を聞き、思いの把握に努めている。朝食前の飲み物は、好きな物を選んで貰っている。習字が得意な方に、筆ペン等を準備して毛筆で手紙の返事を書いて貰った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で、本人様、ご家族様から生活歴等の情報収集をおこなっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の健康状態、言動等を日々観察し、介護日誌や申し送り(申し送りノート)で職員全員が把握・共有出来るように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントのための情報収集、ケアプランの策定、ケアの実行、カンファレンス、モニタリングといった一連のプロセスを本人・家族の希望や関係者の意見を取り入れ、継続的に実施する事を意識し介護計画を作成しています。	2ヵ月毎にモニタリングを行い、情報を基に家族と相談し変更している。夜間帯は、皮膚トラブルに繋がらない様おむつ交換を優先することや薬に頼らない排便対策で、夕食後のヨーグルト摂取を取入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを介護日誌や申し送り(申し送りノート)を利用し職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にとって必要な事は何か？を柔軟に考え課題解決に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自地域にある地域資源を把握し積極的な交流をおこない、入居者様にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導時、主治医に本人様の様子、またご家族様の要望を報告し密に医療連携を行い、本人、ご家族様に安心いただける支援をしています。	全員が、協力医の訪問診療を利用している。歯の治療は訪問歯科を利用している。整形外科や皮膚科等は家族付添いで受診し、家族との情報提供は口頭で行っている。緊急時は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在籍の看護職員、訪問看護師とは入居者様の変化や気づきを報告・相談しています。緊急時にも連携を取り合える体制を確保しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換の連携を図り、入居者様・ご家族様が安心して治療できる関係づくりに取り組んでいます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針、グループホームで出来る事、出来ない事を説明しご理解を得ています。本人様が望むケアは何か？ご家族様と十分な話し合いを行いチーム支援で取り組んでいます。	終末期は、医師や家族、職員で再度話し合い方針を決める。好きな物を食べて貰ったり、家族で過ごす時間が取れるようプランの見直しを行い支援している。職員には、看護師による看取り学習会や振り返り研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の知識 緊急時対応の内部研修を全職員受講しています。今後は実践訓練も企画し、職員全員が的確な初期対応出来るよう取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練を定期的実施、昼夜を想定した避難訓練を実施しています。参加者には反省・感想・改善点等を出してもらい、次回の訓練に役立っています。	夜間想定を含む年2回の災害訓練を行った。職員の多い日勤帯は、役割が曖昧になっているとの感想があり、役割分担を決めた。近くの同法人病院のサポート体制があり、水害時は2次避難所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重・プライバシー確保に対する研修は職員全員受講しています。排泄時の見守りや声掛けにもプライドを損ねないように配慮しています。	入居者を呼ぶ時は、さん付けである。居室へはノックをしてから入室している。入浴の際はタオルで覆ったり、安全が確保されていれば、脱衣所で見守りを行う。排泄の失敗時は、小声でトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時には入居者様全員、同じ飲み物を提供するのではなく、メニュー表を作成し一人ひとり伺い飲み物を決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでのタイムスケジュールは設定していますが、職員側の都合を優先するのではなく、その日の体調・気分等、本人が希望する生活のリズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者様の髭そりは毎日行っています。洋服の汚れ等無いに清潔保持に努めています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスのとれた食事メニューを職員が考え、一人ひとりに合わせた食事形態で提供しています。食事の準備や後片づけも入居者様と一緒にしています。	職員が献立を作り調理している。法人栄養士に栄養アドバイスを貰う。季節の食材を利用し、目で楽しめる盛り付けの工夫もしている。肉や魚等好き嫌いにも可能な限り対応している。寿司やピザが喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量と水分量を記録しています。摂取量の少ない方には、管理栄養士と連携し摂取していただけるように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者様には職員が仕上げを行います。訪問歯科診療を取り入れ専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の排泄感覚を最優先にトイレの場所表示はその方に伝わるようにわかりやすく表示しています。また、入居者様の排泄パターンを把握し自立に向けた声掛け支援をしています。	日中は全員トイレを利用している。失敗があった時は、声掛けの間隔を短くして誘導している。夜間は人感センサーや誘導灯で安全に配慮している。手摺りの利用方法を説明し簡単に立てるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防を目的に水分を多めに摂取頂いたり、食物繊維を献立に取り入れる工夫をしています。便秘解消運動も取り入れてます。ご家族様からも便秘予防につながる情報をお聞きして個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気をつけ入浴剤を入れリラックス出来るように対応しています。入浴の時間帯は入居者様の意に沿えるようにしています。	週2回実施している。入浴剤は2種類から選んで貰い、低めの温度で長湯を楽しんで貰っている。転倒防止対策で、手摺りや滑り止めマット設置、2人介助で行う事もある。脱衣所の温度にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際には、居室の環境(温度、明るさ等)にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬に関する詳細は薬情ファイル(お薬の説明書)を確認し支援しています。職員が何時でも閲覧出来るように設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様やご家族様から個々の生活歴や得意な事などをお聞きし、グループホームでの役割(食器洗い、裁縫等)楽しみごと(イベント、季節ごとの外出等)を共に行うことで生活に張り合いを感じていただけるような支援をしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じたアクティビティへの参加、季節を感じてもらえるような外出行事や、ご家族様も参加出来る行事の企画しお声掛けています。	紫山の花見やイルミネーション見学のドライブで気分転換を図っている。法人病院に慰問に来るプロレス観戦が喜ばれている。天気の良い日は近くの河原まで散歩をしたり、畑作業等で外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族様の了承を得て、所持できるよう配慮しています。外出先で個人のお小遣いから支払うこともあります。支払い証明書を発行し金額・購入品をご家族様に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族様から要望がある時には、電話やお手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々にあった飾り付けを入居者様と共におこない季節感を感じて頂いています。温度や明るさ等に気を配り清潔感のある共有空間で過ごして頂けるように工夫しています。	フロアは、音や色の刺激が強くないように、カーテン等で調節している。サーキュレーターを使用し対流を図り、1日2回換気を行っている。フロアの掃除は入居者も一緒にしている。雛人形を飾り季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣、その方の人間関係の傾向も考慮し、思い思いに過ごせる座席配置やスペースを確保できるように工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人様がくつろげる空間になるように、家族様の協力を頂き、入居者様と相談しながら環境整備をしています。	ベッドやクローゼット、カーテン等が備え付けられ、テレビや机、ソファ等使い慣れた物を持ち込んでいる。家族の写真や届いた葉書が飾られている。読書やボタン付け、昼寝等をして思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置し自分のお部屋が分かるよう工夫しています。居室内や廊下に人感センサーを設置し夜間でも迷わず目的地に行けるように配慮しています。		